

コース 15 ふたまたやま 二岐山

リーダー CL K/T SL M/T
 実施日 平成28年 6月 19日(日) 天候 晴
 参加者 19人 (男性 5 女性 14)
 グレード B上~C
 コースポイント



| ポイント | 到着時間 | 出発時間 | 備考 |
|-----------|-------|-------|-------------------------|
| 秋葉区役所前 | | 6:00 | 磐越道・西会津P(靴履替)、新鶴IC |
| 二岐温泉奥、登山口 | 8:25 | 8:35 | 入口直ぐの笹藪は左右よく刈り払われていた |
| あすなろう坂標柱 | 8:55 | 9:00 | ハ丁坂からあすなろう坂へ岩を縫うように急坂続く |
| ブナ平標柱 | 9:25 | 9:35 | 伐採中止させたブナ巨木林の平坦地がしばらく続く |
| 男岳坂標柱 | 9:55 | 10:00 | 岩と木の根の急坂はなかなかのもの、手強い |
| 男岳山頂・女岳往復 | 10:35 | 10:45 | 有志14人で女岳往復、急坂の降り登り50分 |
| 男岳山頂昼食 | 11:35 | 12:20 | 360°大展望の中で昼食、遠望はモヤっている |
| 下山口 | 14:00 | 14:05 | 急降下の注意及び2本杖の扱い方を注意する |
| 御鍋神社往復 | 14:10 | 14:35 | 社殿前でここの由緒の一節をY氏より聞く |
| 秋葉区役所前 | 17:15 | | 皆さんの協力と頑張りで1時間早く帰着 |

山行等概要(幹事のコメント)

- 二岐山(1544m)は、日本300名山。ブナ伐採を中止させ、尾瀬と共に自然保護運動の原点となったことで知られている。その美しい双耳峰はオッパイ山として親しまれているが、その名に反して男岳側、女岳側双方共になかなかの急登が控えている。
- 縦走は男岳側から女岳側に抜けるのが一般的だが、女岳の降りはロープにぶら下がる超急降下で、その後の長い林道歩きと併せ集団登山には向かない(10数年前に経験済み)そこで多くの登山者がするように男岳往復(可能なら女岳往復も併せて)とした。
- 実施時期は、花や紅葉の時期は他の山行に譲り、山の登り降りそれ自体と山頂での大眺望をメインに据えて実施した。登下降の方はほどよい厳しさで、参加者の皆さんも歩きごたえがあり、それぞれのグレードアップにいささか役に立ったのではないかとと思っている。
- 一方眺望の方は期待通りの大眺望なのだが、この日は遠方の方はモヤって利かず、「福島県の主な山は全て見える」とはいかなかった。なお全く期待していなかった花が、女岳の途中で数種類見られてよかった。



二岐山 男岳山頂 1544.3m 南北に並ぶ女岳と共に乳房山と呼ばれる双耳峰、300名山

- 当日の説明不足（一部修正も含めて）を補うべく、その日よく見えた山について補足説明をする。まず男岳の登り口、南方向に直ぐ見えた緑の丸く盛り上がった山は小白森山、その後方の大きな山塊は大白森山、その右低く甲子山、さらに右鋭く突き上げ旭岳（朝日岳ではない）。一方北方向女岳の背後に大きく台形に見える山は（車で登山口入口を通った）大戸岳、その左手やや手前が小野岳、以上だと思う。これらの山は、いずれも「福島県の山 50 選」に含まれる。
- 今回の山行実施に当たっては、山そのものは 10 数年前の経験と昨年（H27 10 月）の下見によったが、直前の地元の確認で“温泉から奥への沢沿いの車道は落石で通行止め”を知り、6/19（日）の集団登山計画を伝え、落石の除去をお願いした。その他登山道も草刈り、ロープ張り、マーキング等よく整備されており、実施後直ぐ天栄村へお礼の電話を入れた。

「又、行きたかつ二岐山」

(1692) H/Y

「あー、あれから何十年経ったのかなー」と思うほど前であるが、二岐山は短いながらも結構な上り下りがあり面白みのある山で、私は好きな山だった。山頂には人も多く、青空ですっきり山々がよく見えて 360° のパノラマだったなーと、そんな思い出が残っている。

今回又チャンスがあり参加した。新津から一路二岐温泉に向かって、ここから登山口までの林道が長くて車が入ってホッとした。

登山口でそれぞれストレッチをして、さて出発。八丁坂、あすなろ坂と道標もしっかりあり、ミズナラ、アスナロの樹林の中を登っていると、「ギンリョウソウがあったぞー!」「あったよー」と声を掛け合い、前を歩く A さんと「風が欲しいねー」と歩く。たまに冷蔵庫のドアを開けたときのような冷たい風を感じる場所が何箇所もあり、「あー気持ちいいねー」と。こういう風は山ではごちそうだ。

ブナ平付近には、太いブナが多かったのにもびっくり。このブナ林も、昔伐採されていなければもっと見事なブナ林になっていただろうと残念に思う。



二岐山ブナ平 男岳登路のほぼ中央にある平坦地 地元民の力でブナ伐採を中止させ、自然保護運動の原典となった

ここから男岳坂を登り切ると男岳山頂で、山頂付近にはゴゼンタチバナが少しだけ咲いていた。花を見ると疲れも忘れる。女岳には希望者だけ空身で行ってきて、男岳山頂でお昼だ。山頂からは、天気がよすぎたのか、山々がそれほどはっきり見えなかったのが残念。

下山して時間も残り、御鍋神社をゆっくり訪ねることができ、そこで詳しく説明して下さる人がいてありがたかった。

整備され、とても歩きやすく、のんびりと楽しめる山行ができた。また、秋に登ってみたいと思う。ありがとうございました。